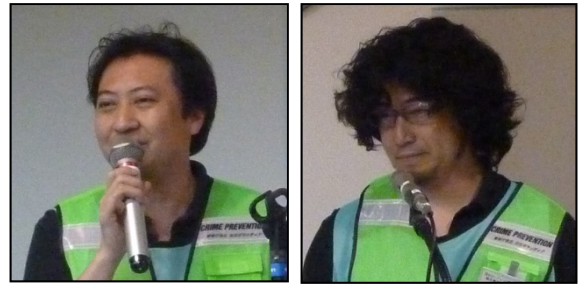


モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合青年部防犯ガーディアンズ（神奈川県）

佐藤 皆さん、こんにちは。神奈川県川崎市から参りました、モトスミ・ブレーメン通り商店街青年部防犯ガーディアンズ代表の佐藤と申します。隣におりますのは、防犯ガーディアンズのテーマソングのボーカルを担当しております中村です。

中村 中村です。よろしくお願いいたします。



活動地域の紹介

佐藤 私たちモトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合青年部防犯ガーディアンズは、商店街振興組合の活動をしながら、地元警察署、警察本部や皆様のような自治会の方のご協力をいただきながら防犯活動を行っています。それでは、早速ですが、設立間もない私たちの団体の活動をご紹介します。

まずは、私たちが活動する神奈川県川崎市中原区木月という場所についてご説明いたします。

中村 私たちが活動する「モトスミ・ブレーメン通り商店街」は、渋谷と横浜を結ぶ東急東横線のほぼ中間地点、元住吉という駅にある商店街です。電車で渋谷や元町中華街まで 20 分前後と交通の便に恵まれています。商店街の歴史は古く、昭和 22 年に住吉商興会として 20 店舗で発足したのが始まりです。その後、元住吉商店街振興組合と名前を変え、平成 2 年にモトスミ・ブレーメン通り商店街と現在の名前になりました。約 700 メートルの商店街に約 170 の商店がある、非常に活気あふれる商店街です。

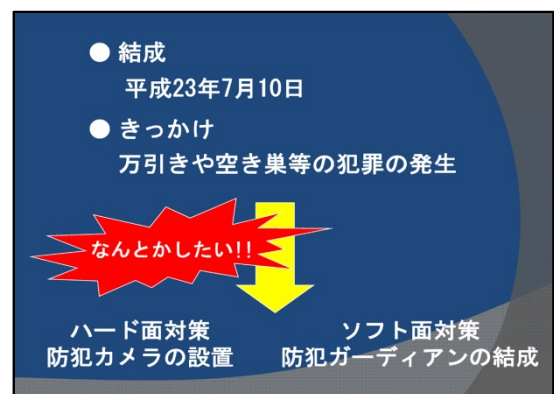
団体の概要、活動内容

佐藤 それでは、私たち防犯ガーディアンズについてご説明いたします。

まずメンバーですが、私たち防犯ガーディアンズのメンバーは、主に商店街の店主で構成されております。

中村 ほとんどの防犯ボランティア団体は、地域の住民の皆様方で結成されていると思いますが、私たちは商店街の青年部のメンバーが自主的に集まって結成されました。結成されたのは、平成 23 年 7 月 10 日と最近で、まだ 1 年も経っていません。

佐藤 結成のきっかけは、ここ数年、私たちの商店街でひったくりや空き巣被害が多発した時期がありまして、防犯に対する意識が高まったというのが一つと、自分たちの街は自分たちで見守ろう。守ろう、ではなくて「見守ろう」という意識が高まってきたのがきっかけです。プラス、地域住民の皆さん



とコミュニケーションを取りたい。商売だけではなくて、住んでいる方々の気持ちとか、安全・安心に対する意識とか、そういう気持ちを大事して、コミュニケーションの輪を広げたいというのが、もう一つの結成のきっかけでした。

中村 そこで、まず何をしたかという、地元警察署の方と相談して、商店街の組合費で防犯カメラを27基設置いたしました。これで、安全で・安心して買い物ができる環境が整いました。しかし、カメラを付けただけで安全かという、そうでもありません。全てを機械任せにするのではなく、自分たちでも何か行動を起こさなくてはならないと思い、商店街の青年部24人が中心となって、防犯パトロール隊を結成しました。

佐藤 防犯パトロール隊を結成しましたが、昼間は商売をしておりますので、活動することはできません。しかし、何とか安全・安心に貢献したいということで、店が終わったあとみんなで集まりまして、夜間パトロールをやってみようということで立ち上がった団体です。現在は、警察庁が実施している「現役世代の参加促進を図る環境づくり支援事業」の実施団体に指定され、防犯パトロール用品の貸与を受け、活動しています。次に防犯活動についてご説明いたします。

中村 まずは、結成式です。昨年7月10日、モトスミ・プレーメン通り商店街において、警察本部生活安全部長、地元中原警察署長、川崎市副市長、神奈川県議会議員等の皆様をお招きして、盛大に結成式を開催いたしました。結成式の後は、中原区防犯協会、中原警察署防犯指導員、女性防犯団体等の方々と合同でパトロールを行いました。夏の非常に暑い日だったのですが、結成式に多くの方に出席していただくとともに、パトロールをすることができ、買い物客や地域住民の方に非常に効果的にアピールできたのではないかと考えています。別の日には、災害救助犬を招いて、振り込め詐欺、ひったくり、自転車盗難防止を訴えながら皆で商店街を歩き、キャンペーンを行いました。これらのキャンペーンは、日曜日等の休日に行われる商店街のイベントに合わせて行っています。昨年7月に商店街の青年部で自主的につくったのが防犯ガーディアンズですが、認知度は決して高くはありません。防犯活動をしていても、地域住民の方に「見回っているな」と思われるだけだと思います。活動していて、「あれ、だれ？」とか言われたりするの、皆さんも経験があるのかなと思いますが、私たちはパトロールするときに、地域の皆さんに私たちの活動と存在を知ってもらうため、そして、自分たちの気持ちを盛り上げるためにオリジナル防犯ソングをつくりまして、その歌を歌いながら活動をしています。

夜のパトロール時は、迷惑にならないように小さな声で歌いますが、先程ご説明したイベントの日などは、大きな声で歌っています。僕はボーカルなので、1日でのどがカラカラになるという感じです。歌を歌いながら防犯活動をすることで、活動する



私たちも楽しく活動ができます。そして、商店街に買い物に来るお客さんや、地域住民の方にも、私たちの活動や存在をアピールすることができ、非常に効果的だと思っています。

また、キャンペーン時には、歌いながらのパトロールの他に、もう一つ目を引くものを用意します。例えば、着ぐるみです。県警察のマスコットやJリーグ川崎フロンターレのマスコットと一緒にパトロールをすることによって、買い物客の注目度は倍増します。

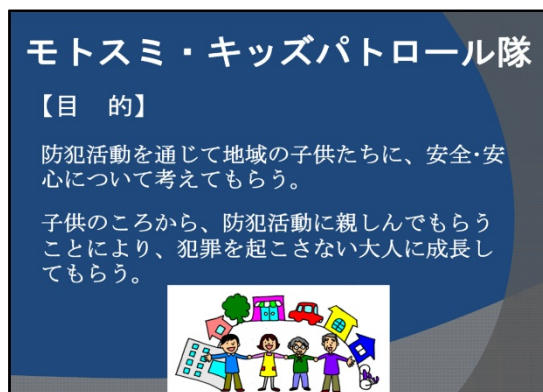
パトロール活動やパトロール隊の存在をアピールするには、非常に大きな効果が得られると思っています。

今後の活動

佐藤 それでは続いて、今後の活動についてご説明いたします。

私たちは現在、月に2、3回の夜間パトロールや商店街のイベントに合わせたキャンペーンを行っていますが、今後の活動としまして、子どもが主役の「キッズパトロール隊」を設立し、子どもを巻き込んだ活動を展開していきたいと考えております。キッズパトロール隊につきましては、プレ実施として、先日5月6日、こどもの日の商店街イベントに合わせ、神奈川県警の方から子ども用の制服を貸していただいて、子どもたちに着せて、一緒に商店街でキャンペーンとパトロールを行いました。

この日のキャンペーンは、自転車マナーアップを中心に展開いたしました。



なぜ、自転車かと言いますと、私たちの商店街は、非常に活気ある商店街であり、夕方の買い物時ともなると、買い物客で道路はあふれ、真っ直ぐに歩けないほどの賑わいを見せます。買い物には自転車で訪れるお客さんも多く、歩行者と自転車のトラブルや自転車による事故がいつ起きてもおかしくない状況です。

私たち商店街でも、「自転車は降りましょう」と呼び掛けていますが、なかなか真剣に聞いてもらえず、注意が浸透していないのが現実です。

そこで思いついたのがキッズパトロール隊によるキャンペーンです。子どもたちの言うことなら、きっと聞いてくれるだろうと思って企画いたしました。

中村 その効果は、企画した私たちが驚くほどのものでした。私たちが「商店街では自転車を降りてください」と言ってもあまり聞いてもらえず、目に見える効果はありませんでしたが、キッズパトロール隊が

言うと皆さん、どんどん自転車を降りていきました。改めて、子どもの持つ力と言いますか、影響力の大きさに驚きました。

佐藤 それから、「ひったくりに気をつけよう」とか「振り込め詐欺に気をつけよう」といった注意も、子どもの声だと、通行人の皆さんも、顔を子どものほうに向け、ちゃんと注意を聞いてくれました。

中村 今後、子どもの力と大人の力を融合させた防犯活動を展開していきたいです。

佐藤 さて、次に私たち商店街ならではの活動をご紹介します。

キッズパトロール隊のプレ実施をしたこどもの日のイベントを始め、私たちの商店街では、季節ごとにイベントを実施しています。イベントの来訪者数ですが、1回のイベントでだいたい5~6万人、多いときで7~8万人の方が商店街を訪れます。年1回「フライマーケット」という商店街のイベントがあるのですが、こちらは延べ人数がだいたい11万人という、非常に大きなイベントです。そういったイベント時に防犯イベントを重ねることによって、チラシの配布率を上げ、私たちパトロール隊の認知度を上げるのに絶大な効果があると思います。私たちは、商店主で、日々の活動に時間的制限がありますので、このようなイベント時に防犯や交通安全活動を重ねることで、短期集中型といえますか、最大の効果が得られるような防犯活動を展開しています、商店街である特長を活かした私たちの活動だと思っています。

中村 また、先程、防犯ソングを歌いながらパトロールしているとご紹介いたしましたが、年1回の最大のイベントである「フライマーケット」やその他のイベントのときには、ただ歌ってパトロールするだけではなくて、地元のダンススクールの先生に振り付けをお願いして、素人の商店街青年部のガーディアンズで振り付けを必死に覚え、イベント会場で披露したりもしました。



佐藤 商店街の仕事、イベントの企画、振り付けの練習と、目が回るほど忙しく、辛い日々でしたが、普段あまり接する機会のないダンススクールの先生や生徒さんたちとの交流があり、また、イベントでの発表の際は、広く私たち防犯パトロール隊の存在などをアピールできて非常によかったと思っています。

中村 この、商店街以外の方との交流という点ですが、私たちの商店街では、商店街として何ができるか、ということ商店街の皆で考えまして、商店街の商店における子どもたちの就業体験を企画して実行しています。

佐藤 皆さん、「キッズニア」というテーマパークをご存じですか。キッズニアは、パン屋さんなどの商店、消防署、警察署などがあり、約80の職業を体験できる、子供向けの職業体験型テーマパークです。私たちは、キッズニアを参考に、商店街でリアル・キッズニアをやる計画を立て、商店街の各商店で子どもを受け入れ、各お店の売り子さんや裏方さんを体験してもらっています。今後は、そこ

<企画>

- ・ 職業体験
働くことで仕事の楽しさ、お金を稼ぐことの大変さを学びます。
- ・ 合同パトロール
一緒に防犯活動をすることで、犯罪予防や交通事故防止に努めるとともに、犯罪者にならない子供を育てます。



に警察官コーナーを設けようと思っております、職業体験の一環として、子どもたちに商店街をパトロールしてもらおうと企画しています。

中村 私たちは、職業体験している子どもたちをブレイメン通り商店街の職業体験なので、「ぶれっ子」と呼び、より親しみがわく努力をしています。また、職業体験の様子は、商店街で発行しているフリーペーパーに掲載したりして、親御さんにも喜んでいただき、町全体を盛り上げることができています。このように、近所の子どもたちを商店街に受け入れ、職業体験などのイベントをすることによって、商店街の活性化の他に様々な効果があります。まず、子どもたちとの交流が深まります。また、子どもたちは、職業体験によって、働くことのすばらしさ、厳しさ、お金を稼ぐことの大変さを身をもって学ぶことができます。これにより、子どもたちに規範意識を芽生えさせ、大人になっても犯罪を起さない人づくりをすることができます。

そして、子どもとの交流を通じ、子どもたちの保護者との交流を深めることができます。子どもたちがキッズパトロールや職業体験により身に付けた規範意識は、子どもを通じて親にも伝わるものだと考えております。親にも規範意識が伝われば、正に、地域を挙げた安全・安心まちづくりに大きな役割を果たすのではないかと考えています。今後も、皆様のような自治会の方との連携を更に深め、私たちの活動をどんどん広げていければいいと思います。



佐藤 それでは最後に私たちパトロール隊の防犯ソングの歌詞をご紹介します。
タイトルは「守レッツゴー」です。

いつもの帰り道 大好きなブレイメン
僕らで守りたい 笑顔だらけの毎日
僕らを育ててくれたから感謝してるんだ
懐中電灯を握り締め みんなでパトロール
この街を照らす (いえーいえー) 俺たちのライト (オールライト)
西から東へ (いえーいえー) 守レッツゴー
小さな光がたくさんあつまれば大きな光で街が明るくなる
いつでも変わらない 大好きなブレイメン
未来へつなげたい 笑顔あふれる毎日
思い出つまったこの道を今も歩いてる
僕らの子どもも歩くから みんなでパトロール
この街を照らす (いえーいえー) 俺たちのライト (オールライト)
北から南へ (いえーいえー) 守レッツゴー
小さな光がたくさんあつまれば大きな光で街が明るくなる

この歌は、私たちが育ったブレーメン通り商店街への思いとともに、犯罪者が嫌う「光」、「音」、「人の目」を織り交ぜて作りました。光は懐中電灯、音はこの歌を歌いながらパトロールすること、人の目は防犯パトロールをすることを意味しています。私たちが防犯ソングを作ったのには、皆様の街にこの歌を広めたいという気持ちもあります。

中村 自分の住む街を好きになって欲しい、安全・安心に関心を持って欲しいと思い、この防犯ソングを作りました。この歌で、「ブレーメン」と言っている部分は皆さんの街に名前を変えていただきたいと思います。街の名前が入った歌を歌うことで、自分の住んでいる街を好きになれると思います。街を好きになれば、もっと住みよい町にしたい、犯罪や交通事故のない街にしたいと思うはずです。そんな効果を狙ったのが防犯ソングです。

佐藤 また、日々の防犯パトロールは、マンネリ化との戦いが常にあると思います。マンネリ化を防止するために、そして、地域住民とのコミュニケーションツールとして皆さんに歌を活用していただきたい。それが私たちブレーメン通り商店街防犯ガーディアンズの願いです。以上で私たちの発表を終わります。

